

きいて・めもして・こたえよう

へいわ がくしゅう こうわ 平和 学習の 講話

なまえ
名前

聞くめあて 語り手が体験した「事実」と、そこから伝えたい「思い」を、分けてメモしましょう。

おとさない言葉：体験の事実・語り手の思い

放送が終わったら、開いて問題に答えましょう。

(1) 木村さんが戦争を体験したのは、何オのときでしたか。

(2) 木村さんが体験した「事実」として、話されたものはどれですか。○をつけましょう。
ア 空から火の雨がふり、町が焼け野原になった
イ 平和ほど大切なものはない

ウ 当たり前の毎日を大切にしたい

(3) 食べ物がないなか、木村さんは何を食べてうえをしのいだと言っていましたか。

(4) 木村さんが「みなさんに伝えたい思い」は何ですか。○をつけましょう。
ア 平和ほど大切なものはない
イ 毎日、飛行機が飛んでいた

ウ 学校に行けなかった

(5) 木村さんの話を聞いて、あなたが平和のために大切にしたいと思ったことを、理由とともに書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声を流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、戦争を、けいけんした、木村さんに、お話を、うかがいます。木村さんは、今、八十八才。子どもの、ころに、大きな、戦争を、体験しました。当時の、事実と、木村さんの、思いを、分けて、聞きましょう。

「わたしが、十才の、ときでした」と、木村さんは、話し始めます。「ある夜、たくさんの、飛行機が、町の、上空に、やってきました。空から、火の、雨が、ふり、あちこちで、家が、もえました。わたしは、母の、手を、にぎり、川原へ、にげました。一晩で、町は、焼け野原に、なりました。」

「食べ物も、ありませんでした」と、木村さんは、続けます。「毎日、いもの、くきや、草を、食べて、うえを、しのぎました。学校にも、行けず、遊ぶことも、できません。ただ、生きること、で、せいいっぱいの、日々でした。」ここまでが、木村さんが、体験した、事実です。

「みなさんに、伝えたいのは」と、木村さんは、声を、強めました。「戦争で、いちばん、苦しむのは、いつも、ふつうに、くらす、人々だ、ということです。だから、わたしは、平和ほど、大切な、ものは、ないと、信じています。当たり前の、毎日を、大切に、してほしい。」

木村さんの、話は、教科書には、のっていない、重い、事実と、願いを、わたしたちに、教えてくれました。「わすれないで、伝えていく」ことが、平和を、守る、第一歩なのだと、感じました。

めものれい

平和学習の講話・木村さん（88才）の話

事実（体験）：10才のとき／夜に飛行機→空から火の雨→町が一晩で焼け野原／いものくき・草でうえをしのぐ／学校に行けず

思い（願い）：戦争でいちばん苦しむのはふつうにくらす人々／平和ほど大切なものはない／当たり前の毎日を大切に

まとめ：わすれずに伝えていくことが平和を守る第一歩

こたえと かいせつ

(1) 十才

「わたしが、十才の、ときでした」と話し始めました。

(2) ア（空から火の雨がふり、町が焼け野原になった）

アは体験した事実。イ・ウは木村さんの「思い・願い」です。

(3) いものくきや草

「いもの、くきや、草を、食べて、うえを、しのぎました」と言っていました。

(4) ア（平和ほど大切なものはない）

「平和ほど、大切な、ものは、ないと、信じています」が木村さんの伝えたい思いです。

(5) (例) 友だちとけんかしても、話し合って仲直りしたい。小さな争いをなくすことが平和につながると思うから。

「大切にしたいこと」と「理由」が書けていれば正解です。